

アドボカシー活動に関する合同メディアセミナー

糖尿病の新たな呼称提案と私たちの真意

日本糖尿病協会 理事 / 学会・協会合同アドボカシー委員
糖尿病の呼称案検討WG リーダー

津村 和 大

幅広い糖尿病アドボカシーのニーズ

保健医療が**発展途上**にある国や地域

⇒ 医療そのものに対する
アクセス向上を目指す

必要な薬の入手



保険適用外
経済的負担軽減



正しい情報提供

保健医療が**一定水準に発展**した国や地域

チーム医療



誤解
偏見の払拭



⇒ 医療の質向上・福祉
スティグマの払拭にシフト

現在のわが国

学会・協会合同アドボカシー委員会の取り組み

- 日本糖尿病学会・日本糖尿病協会の両理事長の先導
2019年8月に両団体合同アドボカシー委員会が設置される。



糖尿病には、あなたの正しい理解が必要です。

公益社団法人 日本糖尿病協会 一般社団法人 日本糖尿病学会
糖尿病とともに生きる人の可能性や未来を偏見で痛み取らない社会づくりに私たちは取り組みます。

① 糖尿病スティグマの認知向上



② 新規エビデンスの集積



③ 社会を動かす具体的活動

- 国民全体への啓発(全国糖尿病週間)
- さまざまな医療者・専門職に対する教育
- 対策推進会議を通じた職能団体の連携
- 政府・議員への情報提供・働きかけ
- 「糖尿病の新たな呼称検討」

新たな呼称提案の意義と留意点

- 病名が直接的・間接的に生み出す誤解や誤った印象を取り除く上で新たな呼称提案は重要である。
- 社会全体のさまざまな領域と水準で正しい理解が浸透しなければ、糖尿病のスティグマは解消されない。
- 新たな呼称の使用や病名変更の歩みでは社会全体の合意と賛同を得る慎重さが欠かせない。



糖尿病の呼称検討WGにおける議論

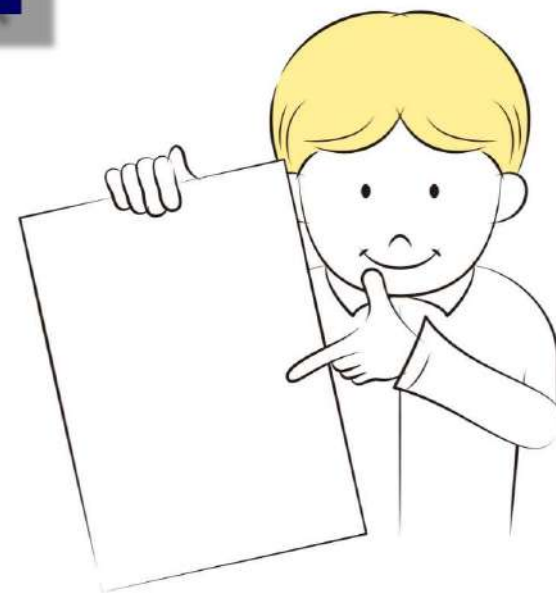
検討WGの構成員と議論のプロセス

- 糖尿病のある人(患者)として歩んでいる人
- 糖尿病医療に長年たずさわっている人
- 糖尿病医学・医療の国際動向を深く理解する人
- 日本医学会 用語委員会委員
- 社会格差・社会疫学の専門家 等が集い

それぞれの立場で広く意見を集めて多角的に議論を深めた

新たな呼称に求められる要件・特徴

- 「学術的観点」から正しい呼称
- 「国際的に受け入れられる」呼称
- 「略称」として使用される場合も想定
- 「診療科名」に転用される場合も想定
- 「新規性」のある呼称は社会のスティグマ除去に効果的



糖尿病の呼称検討WGにおける議論

WGで絞り込まれた新たな呼称案

- インド・ヨーロッパ語族の表記を基盤としたカタカナ呼称
「ダイアベティス」「ダイアビーティス」
「ディアベティス」「ディアベテス」「ディアベ」
- 英語表記を基盤とした英字の略記による呼称
「DMch」「DMS」「DM」
- 病態の正しい解釈に則した漢字表記を含む呼称
「糖代謝症候群」「グルコース代謝症候群」

糖尿病の呼称検討WGにおける議論

呼称検討WG

WGで絞り込まれた新たな呼称案

合同アドボカシー委員会

「**ダイアベティス**」

学術集会シンポジウム・協会理事会・学会理事会

市民・患者会・企業人・行政・医療者・社会学者など
国内外の幅広いステークホルダーと意見交換・ヒアリング

糖尿病アドボカシー推進のビジョン（重要な4つの視点）



1. 糖尿病アドボカシーの
本質的課題を社会全体に伝える
2. 糖尿病アドボカシーに関する
エビデンス・実態を示す
3. 糖尿病アドボカシーを深く学ぶ
幅広い教育支援を展開する
4. 糖尿病アドボカシー推進では
社会全体との協調を忘れない

アドボカシーの本質と私たちの真意

表 日本糖尿病協会メディアセミナー(2022/11/7開催)掲載記事・テレビ番組一覧

月日	媒体名	見出し
11月7日	JLL.com	「糖尿病」の名称変更へ、患者の目撃が不快感-
11月9日	日刊経産	「糖尿病」の名称変更、学会と連携し、授業へ、協会・山田理事長「1,2年の壁にできれば」
11月9日	テレビ朝日 [ABEMA Prime]/ ABEMA Times	「糖尿病」の名称変更、糖尿病に関わるカタチは? 「太った人」、「ガツガツ食べる人」の映像を用いた、新しい方も糖尿病の原因
11月9日	Medical Tribuneオンライン	糖尿病のスティグマを減らす、まず意識から日本糖尿病協会が推進するアドボカシー
11月10日	47NEWS	「糖尿病」の名称変更へ、真の印象、患者の目撃が不快感
11月10日	朝日新聞	糖尿病 名称変えて
11月10日	北海道新聞	糖尿病の名称、患者は不快感
11月10日	TBS「news every」/ TBS NEWS DIG	糖尿病の名称が変わる? ほかにモニター・レイブル、患者会一歩先、中道採用へ、経験者採用
11月11日	産経新聞	「糖尿病」名称変えて、患者不快感、真の印象、患者の目撃「抵抗感」
11月11日	毎日新聞	「糖尿病」の名称、患者の目撃が不快、協会職員
11月12日	日本経済新聞/日経電子版	「糖尿病」名称変えて、患者の目撃、真の印象が不快感
11月12日	フジテレビ「ワイドナショー」	「糖尿病」の名称変更?
11月13日	毎日新聞	1面コラム
11月14日	CareNet.com	医師も実は? 「糖尿病」のスティグマを見直す/日経の活動
11月14日	朝日新聞DIGITAL	「不衛生」「だらしない」糖尿病患者が、意見を述べた理由とは
11月14日	日本テレビ「news zeta」	世界糖尿病デー「糖尿病」名称変更の動きはなぜ?
11月15日	日本経済新聞	「糖尿病」の名称変更を推進する、日本糖尿病協会
11月16日	ケアネット	「糖尿病」の名称変更、医師の目撃が不快、医師1,000人アンケート
11月17日	Medical Tribune	変わる糖尿病とアドボカシー 糖尿病のスティグマを減らす、まず意識から日本糖尿病協会が推進するプロジェクト
11月17日	The Japan Times/ the japan timesオンライン	Facing stigma, people with diabetes seek change of disease's Japanese name
11月17日	NHKラジオ第一放送	「糖尿病」の名称変更とアドボカシー
11月20日	NHK総合テレビ	「おはよう日本」
11月21日	山陽新聞	全国糖尿病連盟、アドボカシー活動「自己責任ではありません」「悪い日を感じない社会に」
11月20日	山口新聞	糖尿病、真の格闘解決を「患者のせい」は誤解
11月22日	産経新聞	「糖尿病」名称変更へ1票
11月28日	読売新聞	「糖尿病」解消へ、誤解「家に糖」実態をくわす
12月5日	毎日新聞	なぜ病名を変えるのか
12月6日	産経新聞	糖尿病に正しい理解を、病名変更も含め、意見解決断念
12月11日	読売新聞	糖尿病の真の格闘解決を「患者のせい」は誤解
12月15日	日経新聞	1面コラム
12月15日	産経新聞	糖尿病 真のイメージ解決を
12月15日	朝日新聞	「糖尿病」改名議論、意見解決のさかぐけに
12月19日	共同通信47NEWS	「糖尿病」と呼ばないで「患者の切実な思い」「せいかく病」のイメージは真見・輪解、実は道徳的な要因が糖尿病

(2022.12.20現在 33頁)

糖尿病にまつわることを見直すプロジェクト わたしたち自身が変わる勇気

日本糖尿病協会 理事
津村和夫

報道の注目が変わる

セミナー開催直後の報道では、「糖尿病の名称変更」にフォーカスされた内容が目立ちました。そしてインターネット上に書き込まれる匿名の意見には、辛辣（しんれん）な内容が数多く見受けられ

ました。匿名空間がもたらす狂気のような、荒々しく攻撃的な文章を目にして、アドボカシー活動に絶望しそうな感情を抱いたのを覚えていますが、

しかしながら、1週間もすると報道の注目が変わります。時間がたつてから書き込まれる匿名の意見や追従報道の記事は、思慮深い内容、柔らかな表現へと置き換わっていくのです。ここから聞こえてくる声は、糖尿病がある人の抱く深い悩みを理解できる人の優しさで、意味を醸成できる人の優しさで、1カ月を経たず今も複数の報道関係者から追従取材を受けていますが、いま交わられている議論は、糖尿病アドボカシーの本質に迫る、建設的なものばかりです。

活動の質を正しく伝える義務

近年、なぜ糖尿病のアドボカシー活動が目立つようになったのでしょうか。糖尿病治療の飛躍的な進歩、とりわけ新しい検査技術や薬物治療の普及により、負担感を軽減しながら血糖マネジメントの質を高めることが可能になり、糖尿病合併症の予防と平均余命の

伸びを実現してきました。そして今、わたしたちは「糖尿病と共に歩むすべての人が幸せな人生を全うできる社会」を目指す新たなステージの入り口に立っています。

わが国より進んだアドボカシー活動を展開する米国や欧州に学び、日本糖尿病協会と日本糖尿病学会の両理事長の発案と先導によって、19年8月に合同でアドボカシー委員会が設置されました。まず「スティグマの認知向上」を目指した啓発活動を展開し、20年から21年にかけては、エビデンスの集積を実践しました。そして、22年からスティグマを取り除き社会を動かすための具体的なプロセスに進んでいます。この中心的な取り組みが「糖尿病にまつわることを見直すプロジェクト」なのです。世間や組織をご理解いただく、プロジェクトに賛同いただくようになつたケースを数多く見てまいりました。一人ひとりが、正しく伝える責務を担っているのだと思います。

わたしたち自身が変わる勇気

もし、唐突にここのばの問題を取



り上げているような印象を与えてしまったならば、それはわたしたちの情懷発露の弱さゆえのことであり、本当に申し訳なく思います。関係学会の厚生労働省とコンセンサスを形成し、社会全体の理解を深めていく取り組みはすでに始まっています。誰にも、保て多く時間を要するとしても、諦めず立ち止まることなく、例えば併用する適切な啓発の創製を含めて、今できることを早期に実現することが大切です。

糖尿病のスティグマは、学校や職場でも経験し得る「いじめ」と本質的には同じです。いわれない中傷を浴びられて、不当な扱いや理不尽な仕打ちを受けながら仲間を見て見ぬふりをする世界は悲しいものです。糖尿病のある人が、このようなつらい気持ちを抱えている現実を知り、糖尿病があつても安心して生活を営める社会創りに関わっていただけないでしょうか。社会が動き始めている今こそ、「わたしたち自身が変わる勇気」を示すことが必要なのです。